

名戸ヶ谷ビオトープだより

第34号

2008年12月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

子供の参加が多かった収穫祭

豊作を祝う収穫祭は天候にも恵まれ、11月1日(土)12:00から名戸ヶ谷ビオトープ隣接の木村家敷地の一角で例年通り催されました。来賓として亀甲台町会長、名戸ヶ谷町会長、名戸ヶ谷小教頭、創新工業社長の4名、新会員候補3名を含めて25名と7名のお子さん達が参加され、賑やかに行われました。収穫祭前日には有志会員各位の応援を得て名戸小から借用の籠、釜、蒸籠、テーブル・椅子等を搬入し、又当日は9時頃から多くの会員の応援を得て、餅つき、バーベキュー、豚汁作りの作業を開始しました。今年の献立は①もち米からの搗きたて餅の餡、黄粉、醤油仕上げの三種、②うるち米からのちらし寿司、おにぎりの二種、③豚汁、④バーベキュー、等でした。この他に、会員から各自ご自慢の漬物類、サラダ、イナゴの佃煮、焼き芋、マシュマロ、栂榴酒等も持ち込まれて料理に彩を添え、来賓からは飲み物類の差し入れもありました。



今年は収穫米でつくった餅や不耕起米でつくったオムスビに対する皆さんの評価は上々でした。今年は収穫量面の豊作だけでなく、品質面でも良質なお米が得られたことは会員や名戸小児童のみなさんの惜しみない日頃からの努力の賜物と喜んでおります。日頃の苦労話やビオトープでの出来事などを肴にして楽しい時間を過ごし、14:30分頃にお開きになりました。今年は昨年の実行委員長外川さんからの適切な指導に加えて会員各位からの格別なるご協力を得、無事に終えることができました。ありがとうございました。(収穫祭実行委員長 影山賢三)

いつも「自然は惜しみなく与える」を実感する。ビオトープの豊かさ。それを支える人々の環も。年々豊かになっていくようです。いつもありがとうございます。収穫祭ごちそうさまでした！(森田裕子)

ひとくちインタビュー-初参加の方々とお子さんたちにききました

- のんびりとした時間と空間。ありがとうございました(諏訪孝佳)。
- これからもよろしく願います(橋本保明)
- すべて自然で美味しくたべられ嬉しかった(加藤優花、中原小6年)。
- イナゴの佃煮は気持ち悪かったけど美味しかった。ウシガエルの大きなオタマジャクシがいた(橋野佳奈、小3)
- イナゴを佃煮にしていたのでびっくりした(諏訪葵、小5年)
- いっぱいたべものがあつたべきれなかった(笹川莉々、中原小5年)



名戸小ふれあいのつどい

恒例の餅つきとビオトープ展

ビオトープ5周年を記念して名戸小「ふれあいのつどい」では理科室を使ってビオトープ展が行われました。屋外のグランドではビオトープで田植え・稲刈り・脱穀、と一緒に米づくりに取り組んできた5年生児童や先生方と収穫を祝うために11月15日、朝早くから多くの会員のみなさんがグランドに集まり、モチつきの準備に取り掛かりました。



モチ搗きには先生方や見物のお父さんたちも飛び入りで加わり声援に励まされて、児童たちもよろよろしながら次々にモチ搗きに挑戦しました。搗き上がったモチはお母さん方やエプロン姿の5年生の手で素早く黄粉・餡・醤油味のマシュマロ大のサイズの餅となりました。

なお、ビオトープ展は屋内の理科室で行われました。幸い好天にも恵まれ、「ふれあいのつどい」は成功裡に終了しました。会場の一角では校庭で拾い集めた銀杏の実がユニセフ募金の一環として販売され、その横では今年収穫された米も参加者に販売されていました。（「ふれあいのつどい」実行委員 高田昭治・広報）

ひとくちインタビュー 父兄の声

- 餅はすごく柔らかくて美味しいです（3年児童の父）
- 自分たちの時代にはなかったのが羨ましい（3年児童の父母）
- 今どきこうした風景が見られて嬉しいです。（5年児童の母）
- モチつきは初めて。思ったより杵が重くて。あ、疲れるわ！（4年と2年の二人の児童の父）
- 美味しかったです。こうしたことを通して子どもたちが自然に環境のことを学び、またみなさんが地域と結びつくことはとてもよいことですね（5年児童の祖父）



ひとくちインタビュー 児童の声

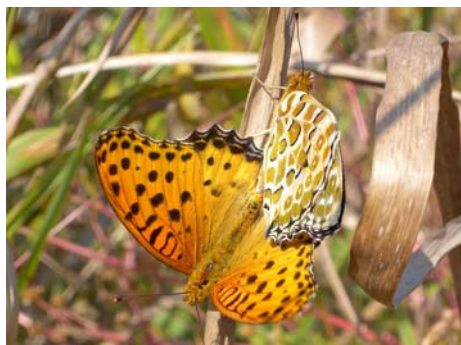
- モチつきの杵が重かった（5年、横山浩）
- 火起こしは目が痛くなったけどすごく面白い（5年、千葉裕）
- モチつきは楽しかった。ちょっと手が痛くなったけど（5年、安藤雅崇）
- 熱くて目が痛かったけど、友だちと一緒に楽しい。ズボンに穴が開いちゃった（5年、山崎聖哉）

第7回定期総会のお知らせ 日時：2009年1月24日（土）10:00～11:00

会場：南部クリーンセンター（3階大ホール）

秋の生きもの観察会・生態調査

10月18日(土)、27日(月)にそれぞれ生きもの観察会と生態調査を行いました。生きもの観察会は、小学校の低学年の子どもたちが集まり、「観察会」というよりは「ザリガニ捕り」に終始した感があります。子どもたちがビオトープで自然に接することを目的と考えれば元気に走り回る子どもたちの姿が何よりかと思います。



ものです。(松清智洋)



生態調査では、柄澤先生をお迎えして快晴の下で行い、合計47種の昆虫や鳥、魚などと出会いました。大きな変化はありませんが、魚に関してはモツゴの姿がほとんど見られなかったこと、昨年に比べウシガエルのオタマジャクシが非常に多いこと、そして、ニホンアカガエルの個体数が減っているように思われることが気がかりな点です。なお、カマキリは生態調査日に目立っていた生きものであり、写真にあるチョウはツマグロヒョウモンの交尾の様子で、近年個体数が非常に増えている生き

名戸ヶ谷ビオトープ展

柏市庁舎新館にて

11月20日から12月11日までの間、柏市役所新館一階ロビーで名戸ヶ谷ビオトープの写真展を開いています。この企画は柏市環境保全課の協力を得て実現したものです。ビオトープの概要と活動を広く市民の方々に知っていただきたい、というのが趣旨です。大型のパネル15枚を使って百枚を超す写真などを展示しています。最も力を注いで展示しているのがビオトープと子供たちとの関係です。米作りを体験学習する名戸ヶ谷小学校児童の活き活きとした動き、休日にザリガニや虫を捕りに来た子供たちの得意げな顔、が活写されています。また、ビオトープで汗を流す会員の頼もしい様子も展示されています。是非、皆さんも足を運んでいただき、ご覧ください。

(土日・休日は閉館) (佐々木 光正)



作業小屋の屋根補修とBゾーン中央木道改修



10月13日に作業小屋の屋根の雨漏りをトタンで防ぎ、11月22日には2カ所の陥没部分を補修し、通行止めを解消しました。材料費のみの無償工事です。(小笠原 智)



ビオトープの花

今回はコナギについて説明します。コナギはビオトープで最も悪名高い草になっています。特に、昨年、コナギが水田にはびこって稲の生長を阻害し、会員がコナギの摘み取りに四苦八苦したからです。今年は皆さんの春先からのご苦勞が実ってコナギは勢力を落とし、お米の収穫は飛躍的に伸びました。

コナギはイネと共にマレーシア方面から日本へ渡ってきた古い帰化植物です。名前は小葱（こなぎ）で昔は食用にしていたそうです。取っても取っても減らないので「ナギ」は「難儀」だと思える人もいたようです。コナギは自家受粉を二度もするために極めて強い繁殖力を持ち合わせています。コナギの花は午後になってから開花し夕刻にはしばむ一日花です。あの特色のある紫色の花、美しいとは思いませんか。「稲作の天敵を美しいとは何事か」お怒りの声が飛んできそうです。(佐々木 光正)



ビオトープと私 第3回

北海道の農家に5人兄弟の長男として生まれた私は高校卒業までは当然家の農業を継ぐ予定でした。小さい頃から家の農業の手伝いで学校を休むことも度々ありました。それが、ひよんなことから東京の大学へ進み、重工業に就職して全く土とは無縁な職場で毎日を送っていましたが、公害問題が社会で大きくクローズアップされた頃からはこれまた仕事で環境改善に深く関わるようになりました。

10年前に定年退職したその翌年、東京ビックサイトで環境関係の展示会がありましたが、偶々その会場で「不耕起栽培普及会」会長の岩沢信夫先生に出会いました。私は農業をやめた人間ですが、食の安全、食の自給率、環境問題には以前から強い関心を持っていました。初めて会ったその日に、岩澤先生の話好きもありましたが、二人で40分以上も話し合いました。今思っても本当に良い出会いであったと感謝しています。

以来、機会ある毎に毎年一回は会ってきました。話題は不耕起栽培のことから、湖沼汚染、水道、佐渡のトキ、子どもの教育、など多岐に及び、2時間程はあっという間に過ぎて、帰りが遅くなることも珍しくありません。しかし、会えば必ず元気を頂き、病と闘いながら活動される先生の姿に深い感動をおぼえます。

「不耕起栽培」を自分も是非やってみたくて思っていたこともあり、私は進んでビオトープを育てる会に参加させて頂きました。休耕田を復活させる最初の段階からの参加です。当時の苦闘の様子はこの会報第1号に書かれています。私は北海道では畑作農家で、水田の経験はほとんどありません。しかし高校時代までの農家の経験がやっと活かされた気がします。自信をもって言えます。「どんな経験にも無駄はない。必ず活かされる時が来る。」

これからも子どもの教育、環境改善、地域の和、などに微力ながら関わっていきたくて。そして何よりも、ここで知り合ったビオトープの仲間との交流を大切にしたいと考えております。(才川寿磨)

編集後記 収穫祭も「ふれあいのつどい」も無事に終わりました。今年は豊作の上に米の味もよく、評判は上々でした。「ビオトープを育てる会」5周年を記念して、名戸ヶ谷小学校の「ふれあいのつどい」には準備段階からビオトープ会員も参加し、理科室を会場に「ビオトープ展」が行われたのに引き続き、11月20日からは柏市庁舎新館1階ロビーでも「名戸ヶ谷ビオトープ展」が開かれております。地域に広がるビオトープ。1月24日(土)の総会を成功させましょう(広報担当 春山)